

【評価実施概要】

事業所番号	0170200810		
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生		
事業所名	グループホーム 蔵		
所在地	〒001-0922 札幌市北区新川2条10丁目1番35号 (電話) 011-759-5250		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年2月18日	評価確定日	平成20年3月28日

【情報提供票より】 (平成20年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 1月 14日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤17人, 非常勤1人, 常勤換算17人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円		
その他の経費(月額)	・水道・光熱費 23,000円 ・暖房費 6,000円 (11月~3月)		
敷金	有 ( 円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	340 円	昼食 450 円
	夕食	550 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,340 円		

(4) 利用者の概要 (1月31日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	8名	要介護2	5名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 79.1 歳	最低 58 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ごう在宅クリニック・さくら歯科クリニック・デンタルクリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ゆったりとした日々の生活を、利用者と職員が共有しているのが伺えた。また、事業所内は明るい雰囲気、職員は利用者本位の支援を理念に添って実践している。運営者は新任研修を始めとして、職員の研修に重きを置いて外部の研修に参加を促し、学びの場を提供している。更に年2回、同じ系列のグループホームと合同で職員が希望するテーマで研修会を開催している。自立度の高い利用者が多く、居室も馴染みの調度品を持ち込み、落ち着いた住まいになっている。定期的に運営推進会議を開催し、町内会との関わりや地域との連携が良好になり、住民の事業所に対する理解が深まりつつある。フリープランとして、利用者個別に外出希望に添って支援し、利用者の楽しみとなっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	緊急時の手当については、職員研修の課題として取り組んでいる。地域の人々との交流については近隣住民と互助の関係が出来つつあり、相互に信頼が増してきた。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者と非常勤職員も交えて全職員で評価項目について話し合いを重ね、事業所の取り組みたい項目を検討して課題を確認した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催し、報告のみならず話し合いを活発にすすめ、地域との連携が良好となった。日常的に町内会長が出入りをし、親交が増した。町内の行事の参加が多くなった。会議をきっかけに、避難訓練に地域の協力が得られた。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	日頃から家族とは連絡を密にし、毎月「たより」を発行し家族に知らせている。また、面会時には気軽に語り合いをしている。意見や要望を事業所で求めているが、反応は少ない。話せる場として家族会も開催している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	職員と利用者が町内の行事に積極的に参加している。「地域の子供を見守る一見守り隊」の仲間として地域の活動に協力している。散歩のときなど住民と気軽に声かけなど馴染みになってきた。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念が掲示されているが、地域密着型サービスとしての内容は含まれていない。	○	地域密着型サービスの実践は種々に見られるので、理念の中に明文かされることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	非常勤も含め、職員全員が理念を充分認識し日常のケアに活かして実践している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は職員と利用者が町内の行事に参加するのみでなく、地域の子供を見守る「見守り隊」として活動し、地域住民の一端を担っている。日常的に自然体で地元と関わりをもっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員が全員で評価項目について話し合いを重ね、至らない点について検討し、具体的に取り組む課題を確認した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月ごとに開催し、地域の町内会長、民生委員等が参加して地域との連携が良好になった。種々の協力体制が出来つつある。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所は日常的に行政と連携を密にし、報告のみならず指導を頂きサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや行事の状況などを、毎月「たより」を発行し家族に知らせている。健康状態については、変化があるとその都度、家族と連絡をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が事業所にきた時に、管理者や職員は気軽に話せる場を設定している。また、家族会を開催し懇談の場を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる場合は、利用者が不穏にならないように特別に配慮し、チームで取り組み利用者への影響を防ぐようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は新任研修を始めとして、職員の研修に重きを置いて外部の研修に参加を促し、学びの場を提供している。更に年2回、同じ系列のグループホームと合同で職員が希望するテーマで研修会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人が運営する事業所が市内にあり、交流を図りサービスの向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に、本人は勿論家族と話し合いを充分行い、納得を得られてからサービスを開始している。事前に、本人のもとを訪問し状況の把握に努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の会話や行動を共にし、利用者を介護の受身とせず共に暮らす仲間として支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を個別に把握し、事業所でどう暮らしていくのか検討している。毎月の会議で確認しあっている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月ユニットでケア会議を開催し、日々の記録を参考に介護計画について話し合い、本人に即した計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月で見直しをするが、状況に即しているか否か充分検討し、毎月カンファレンスで話し合い、現状と照らし合わせて見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じ、通院等の支援を行っている。また、フリープランとして本人の行きたいところへの外出支援を、職員が引率して実施し利用者の楽しみとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師が、隔週で往診に来て適切な医療が受けられるように体制を整えている。また、非常勤の看護師を配置し、利用者の服薬支援と健康管理を維持している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化に対応した医療連携体制の指針」を作成し、サービス利用開始時本人及び家族と同意書を取り交わしている。状況を把握してかかりつけ医師と相談する体制になっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重し、記録の取り扱いをはじめ、プライバシーを損ねる対応はしないことを職員は励行している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、体操や体を動かすことなど利用者と職員と一緒に行動をしているが、利用者本位にし職員主導ではない。個別の希望に添うように努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常は職員が献立を決めて調理をし、盛り付けなど協力しながら食卓で一緒に食事をしている。月に1度利用者が献立を決め、買い物から調理、盛り付けなど利用者中心で対応し、利用者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方的に強制しないで、選んでもらう場をつくり信頼のなかで入浴を楽しめる支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ユニットの中でいきいきと役割をこなし、満足するように励ましや声かけを日常的に行っている。花壇作りや除雪に取り組む利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの要望や天候状況により、暖かい時期は外出の機会を多く設定し、買い物や散歩など戸外に出かける支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りを強化し、利用者の気分や状態を細かく把握して日中は鍵をかけないで生活するように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定して消防署の協力を頂いて避難訓練を年2回実施している。町内に連絡し、協力が得られる体制になっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が利用者の好みや希望により献立を作成しているが、栄養士の点検を受けバランスの良い食事を提供している。利用者の状態に応じて支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の中心に居間と食堂があり、季節感を感じる飾り付けがある。台所や浴室、トイレの配置が使いやすい位置にあり、落ち着いた住まいになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者がそれぞれ仏壇など馴染みの調度品を持ち込み居心地良く暮らせるようになっている。		

※  は、重点項目。